

2007年10月10日

～プラスチック原料を年間に約570t削減～
弁当の包装形態を“ラップ包装”から『テープ止め』に変更
-食材内容が鮮明になり、弁当の見易さ、選びやすさも向上-

株式会社セブン-イレブン・ジャパン（東京都千代田区、代表取締役社長 最高執行責任者 <COO> 山口 俊郎）は、環境負荷の低減および弁当の見た目や選びやすさの向上を目的に、本年11月以降順次、セブン-イレブンで販売する弁当の包装形態を“ラップ包装”から『テープ止め』に順次変更いたします。

包装形態の変更を進めるにあたり、本年3月よりテストを重ねてまいりました。配送中の荷崩れや売場での安定陳列等に対応する為、容器の変更やテープの改善を行った上で、このたびの弁当簡易包装の実現にいたしました。現在一部エリアで実施しているテスト結果を踏まえ、07年度中にはセブン-イレブン全店（9月末現在11,837店舗）での導入を予定しております。

これにより、プラスチック原料を年間に約570t削減することが可能になり、レジ袋に換算すると現使用量の約5%削減と同等の効果が見込まれることとなります。

セブン-イレブン・ジャパンでは、環境問題対策等の社会的責任を遂行するとともに、安全・安心を第一とした商品開発を推進してまいります。



<変更前>
ラップ（フルシュリンクラップ）包装

<変更後>
テープ止めのみ

<新包装形態の弁当について>

内 容 弁当の包装形態を、現状の“ラップ（フルシュリンクラップ）包装”から『テープ止め』へ変更

目 的 環境負荷を低減
弁当の見易さ、選びやすさとともに、手作り感、できたて感を訴求
“コンビニ弁当はゴミが多い”というお客様のイメージを改善

対応事項 **容器・テープの構造を改良**
レンジアップした際に蒸気を逃がす蒸気弁、フタと容器を止めるテープの構造を見直すことで、密閉性を確保

フタと容器（受皿部分）の構造を改良
フタと容器のかみ合わせ部分の構造を改良し、密閉性を向上

弁当容器のフタと底面の形状を変更
容器のフタと底面に凸凹をつけ、上下がかみ合うように容器することで、配送効率を改善し、売場での陳列のし易さを追求

配送時の工夫
弁当と弁当の間におにぎりを挟む等、弁当配送用ケースへの詰め方を工夫し、安定感のある配送を実施

環境負荷低減

今回の取り組みにより年間約 570t のプラスチック原料を削減
レジ袋 5%削減と同一効果に

今後の展開 2007 年度中にはセブン-イレブン全店での展開を予定

11 月以降、順次展開予定

現在、山梨県・千葉県の房総エリアの合計約 370 店舗でテスト展開を実施

以 上